

ケーブル・パネ

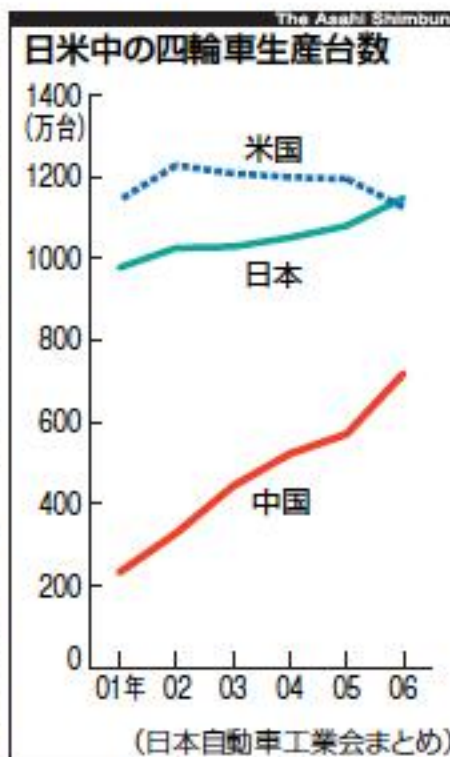
日本製と同品質で安く

朝夕のラッシュ時、進まない渋滞に、いらだちのクラクションが鳴り響く。中国の都市部では交通渋滞が深刻な問題となる一方、マイカー熱は増すばかりだ。名古屋市のパネメーカー、林スプリング製作所。同社が江蘇省蘇州で生産する自動車用ケーブルやパネが、中国で生産される世界中のメーカーの自動車に相次いで採用されている。

「いずれトヨタ自動車も中国に出る」。先代の林真一郎社長が中国進出を決めたのは98年。中国国営のワイヤロープメーカーを買収して、合併会社を始めた。当時、日本メーカーはまだ完成車の合併生産を始めておらず、中小の部品メーカーが単独で進出する例はまれだった。どこでどう営業すれば良いかも分からないうま中国事業を任せられた、長男の真弘社長(32)は途方に暮れた。

取引先もいままに参加した上海の展示会。中国で質の高いケーブルを探していたフランスの部品メーカー、パレオの担当者がたまたまブースの前で足を止め

マイカー熱 業績に弾み



た。図面を見せながら「こういう製品は作れるか」と尋ねてくる。「頑張ります」。仕事になりそうだと思い、そう答えた。

パレオは、日本国内の最大の取引先である部品メーカーと同規模の世界的企業。父の真一郎氏からは「何としても取れ」と指示が飛んだ。商談はまとまり、エアコンの風量調節ケーブルの取引が始まった。

日本製と同品質で安いとあって、フランス本社のほか、同社のスペイン、チェコ、イタリアの工場も次々に採用。それが呼び水となり、シトロエン、ピステオン、デルファイなどの欧

米系メーカーや地元の中国メーカーにも取引は拡大。エアコンの風量調整ケーブルでは現在、中国市場の3分の1のシェアを占める。

クライニング用のパネには、1万回以上背もたれを倒したり起こしたりしても平気な耐久性が必要だ。同社製の基準は倍以上の2万5千回で、2時間に1度は寸法を千分の1、単位で機械測定し、安定した品質を目指す。安全に直結する耐久性不足の製品が入り交じる、中国製にありがちなばらつきのないものづくりを心掛ける。

パネ生産会社の牟徳金・製造課長(32)は、日本の厳しい品質管理を学ぼうと、同社に入社した。「品質がどれだけ良くても困ることはない」と話す。

最近では取引先の中国企業にも技術指導している。蛍光灯を付けて工場内を明るくすることを勧めたり、製品ができあがった時点で不良品をえり分ける大切さを説明したりした結果、生産性が上がったという。



自動車の増加に、交通マナーの悪さが拍車をかけ、都市部では朝晩の渋滞が深刻な社会問題になっている＝北京で

世界を拓く 東海の技

中国編



No.22



コントロールケーブルはドアロック用が月120万本、エアコン用が月50万本、シート用のパネは月25万本を生産する＝江蘇省蘇州で

世界3位の車大国

日本自動車工業会のまとめによると、中国の自動車生産台数は06年に719万台となり、582万台のドイツを抜き、日本、米国に次いで世界3位の自動車大国となった。販売台数も年々増加し、05年の

新車販売台数は576万台。トップの米国(1744万台)に続き、このところ伸び悩みが顕著な日本の585万台と肩を並べるまでに成長している。市場の拡大を受けて、05年末現在の中国の四輪車保有台数は3088万台と3年前に比べて1.5倍になった。一方、日本は微

増の7569万台どまりだった。日本メーカーもホンダ、トヨタ自動車、日産自動車などが続々と進出。中国を筆頭に海外現地生産もアジア地域が大きく伸びており、06年は400万台の北米を上回る413万台となり、全世界の4割近くを占めている。